



株式会社
オリエンタルコンサルタンツ

ORICONSUL

■ ごあいさつ

社会価値創造企業へ



株式会社オリエンタルコンサルタンツ
代表取締役社長 野崎 秀則

当社は昭和32年12月の創立以来、高度化、多様化する社会のニーズに対応するため、事業の多様化、組織の変革・拡大を図りながら知的サービスを提供してまいりました。そして、令和4年12月に創立65周年という節目を迎えることができました。これも、お客様である国民や発注者の皆様、株主、役職員やご家族の方々、諸先輩の方々等、多くの関係者からのご支援、ご指導、ご鞭撻によるものと深く感謝申し上げます。

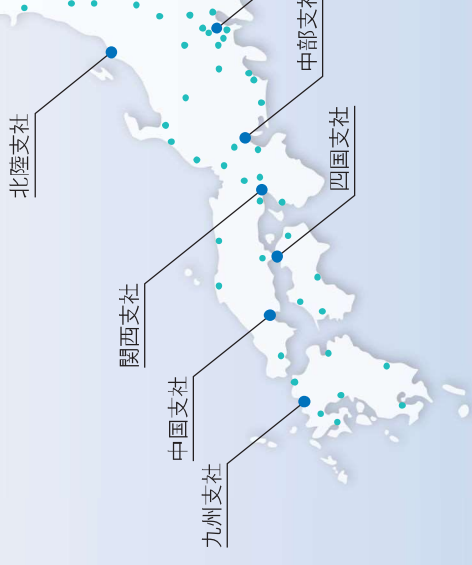
創立より60年以上にわたり、私たちは社会インフラ整備に関わる企業として、「安全、安心、快適、活力」という価値を提供してまいりました。そして、さらに魅力ある社会や持続可能な社会を創造するため、2030年ビジョンとして「社会価値創造企業」を掲げました。

私たちは、「革新」と「変革」と「挑戦」をキーワードに、これからも国や地域とのより高い信頼関係を築き、「社会価値創造企業」を目指してまいります。

※2014年10月に、海外事業を担うGC事業本部をグループ会社

■ 国内主要事業所

- 支社
- 営業事業所



2006年8月

純粋持株会社の
株式会社ACKグループ設立
(OCは、ACKグループの基幹企業)

2008年8月

株式会社バシフィックコンサルタンツイン
海外事業の譲受け

2010年10月

総合マネジメント事業部設置
(事業領域の拡大)

2013年3月

子会社 株式会社オリエンタル群馬設立
(事業経営の推進)

2013年11月

株式会社ジェーエステックを子会社化

2014年4月

子会社 株式会社トータルリーポートサービス
(事業経営の推進)

■ 事業の多様化と組織の変革・拡大

1957年12月24日 創業
PC構造物の

1965年6月
構造に加え、道路分野、

1972年5月
技術開発室設置

1974年4月
海外事業室設置

1978年4月
特定プロジェクト室設置

■ 経営理念 (MISSION) ~ 私たちの使命 ~

私たちは、社員満足、顧客満足、社会貢献を追求することで、真に魅力ある企業を実現します。

- ・ 全社員の物心両面の豊かさを追求する (社員満足)
- ・ お客様に最高の総合的・知的サービスを提供する (顧客満足)
- ・ 世界の人々の豊かなくらしと夢の創造の実現に貢献する (社会貢献)

■ 経営姿勢 (VALUE) ~ 私たちの経営の考え方 ~

私たちは、真に魅力ある企業の実現のために、経営にあたって以下の4つの考え方を大切にします。

- ・ 顧客や社会から信頼される企業になる
- ・ 個の成長、企業の成長、豊かさの実感の好循環を生み出し、情熱とやりがいを醸成する
- ・ 好循環を生むために、適切な利益を追求する
- ・ 役職員一人ひとりが主役となる全員経営の推進、経営基盤の強化を行う

■ 行動指針 (BEHAVIOR) ~ 私たちの行動の規範 ~

私たちは、全員経営の推進により、自らが成長するとともに、仲間のため、顧客のため、社会のために貢献します。

当事者意識を持つ

役職員一人ひとりが経営理念の遂行に責任があることを自覚する。

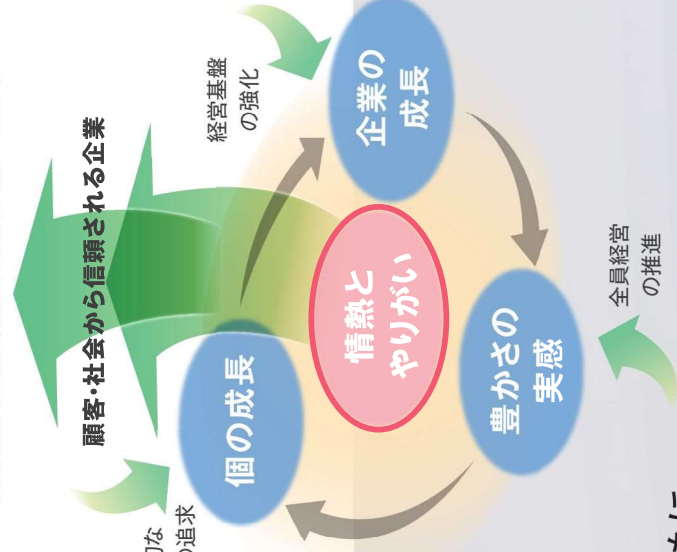
チームワークをもって協働する

役職員相互がコミュニケーションを充実し、仲間を尊重し、協働する。

自主・自律の精神で最善を尽くす

役職員一人ひとりが革新と変革、挑戦の気質を持ち、自己研鑽に努め、

真に魅力ある企業へ (社員満足、顧客満足、社会貢献の追求)



■ 2030年ビジョン

日本トップブランドの技術により、~「全員経営」と「情熱とやりがい」

社会価値創造企業

~自らが社会を創造する担い手にな

更なる社会価値の創造

事業経営・官民連携により
主体的にマネジメントを最適化

DXの推進により、事業モデルと業務プロセス

総合化、高度化により新たな社会価値を



■ 我が社が目指すDX (デジタルトランスフォーメーション)

DXにより更なる顧客満足、社員満足

社会・経済を支える道路インフラを創る・守る

～社会インフラの整備・保全をDXの推進による変革を踏まえ、高度技術と全体マネジメントで最適化～

社会構造の変化に合わせて持続的な社会・経済活動を支えるために、道路インフラの整備は今後も欠かせません。

一方で、高度経済成長期に建設された多くの社会インフラが老朽化するなか、既存ストックの有効活用と維持管理・更新を計画的に実施
私たちは、国内外で数々の表彰を受けるなど、これまでに培ったナランバーワン・オンリーワンの技術やマネジメント力を駆使し、DXへの変革

し、社会インフラを保全していかねばなりません。
も念頭に、社会インフラの整備・保全事業に総合的に継



道路

交通計画、橋梁、地下構造、景観、環境、防災などの多角的な視点から、地域のニーズに即した検討を行い、すべての利用者にとって「安全」「安心」「快適」な道路空間の計画・設計を行なっています。

道路連絡施設設計

大橋JCTの計画・設計及び交通運用検討

都心部のコンパクトなジャンクションにおいて、路面標示や案内看板を色・デザインで統一することを提案するなど、安全な走行空間を構築するための計画・設計を行いました。



民間スマートIC・ラウンドアバウト

VISON多気(日本最大級の商業施設)

地方創生の大規模民間プロジェクトとして、2021.7.に三重県多気町にグラントオープンした「VISON多気」に基本計画の段階から主幹企業として関わりました。公共インフラと融合させた新しい民間開発事業として、民間施設直結スマートIC、施設内公共道路整備とラウンドアバウト導入、国道改築、駐車場配置計画など、インフラ整備全般に関するコンサルティングを行いました。



ラウンドアバウト設計

須坂市RAB予備設計、詳細設計

道路交通法の改正後、本格運用された日本初のラウンドアバウトの設計を実施しました。他の地域においても、地元への交通ルールを含めた説明会や関係機関協議・調整などの取り組み、導入検討、調査・分析、社会実験、計画・設計、施工計画など、実施しています。



PA連結スマートIC設計

遠州森町スマートIC設計

新東名高速道路遠州森町PAにおけるスマートICの導入に伴い、スマートIC及び周辺町道の計画・設計、周辺道路の案内検討を実施しました。



BIM/CIMを活用した道路設計

東紀州地区道路設計

道路予備設計において、BIM/CIMを導入した設計を行い、数量の自動算出や構造物設計との整合確認など、3次元データを活用した道路設計を実施しました。



PA連結スマートNIC設計

由布岳PAスマートNIC設計

大分自動車道由布岳PAにおけるスマートIC導入に伴い、道路・構造物詳細設計の実施、段階施工ステップを検討しました。



ICT施工

BIM/CIMによるICT土工導入促進支援

BIM/CIMを活用した道路設計

名護東道路(数久田地区)道路予備修正設計業務

屈曲した道路線形に対し、BIM/CIMの導入による3次元モデルを作成することで、信号や案内標識の視認性を視覚的に検証し、安全性に優れる道路設計を実施しました。



事業推進PPPによる道路事業監理

三陸沿岸道路事業監理業務

官民連携の新たな試みである、事業推進PPP手法による道路事業監理業務を受注し、意欲的に活動を展開しています。



UF

発

UA

的

た

石

証



震

陸

陸

上

に

い



構造（橋梁・特殊構造・解析実験）／保全（点検・補修補強設計）

ニーズが多様化している現代、橋にも「美しさ」、「低環境負荷」、「低ライフサイクルコスト」等、様々な機能が要求されています。これらのニーズに応えるため、積極的に新たな技術・工法・手法を用い、次の世代に残る橋の計画・設計を行っています。

海洋架橋の計画・設計・維持管理計画

新湊大橋

国際拠点港湾伏木富山港の臨港道路における景観検討及び複合斜張橋のPC側径間、接合桁等の詳細設計を実施しました。（平成24年度土木学会田中賞受賞、照明学会照明普及受賞、土木学会デザイン賞2015奨励賞受賞）。



都市内高速道路高架橋の計画・設計

横浜港北ジャンクション高架橋

首都高速横浜北西線および横浜北線、第三京浜道路を結ぶ多層構造のジャンクションのうち、連絡路及びランプ橋の設計を実施しました（令和元年度土木学会田中賞受賞）。



高塩害地域の『100年橋梁』の実現

数久田ICオンランプ橋

一般国道58号名護東道路の全線開通の最終橋梁を、設計コンセプト・ポリシーと最新技术を駆使し、高塩害地域の『100年橋梁』を計画・設計しました（令和3年度 全日本建設技術協会 全建賞受賞）。



海洋架橋の計画・設計

小名浜マリナブリッジ

福島県いわき市小名浜港に建設された橋長927mの臨港道路橋です。航路上をまたぐ、5径間連続PCエクストラード橋であり、臨港道路橋として日本で初めて採用した形式です。小名浜港および周辺地区のランドマークとなっています。（平成29年度土木学会田中賞受賞、平成30年度PC工学会賞作品賞受賞、2019年日本コンクリート工学会賞作品賞受賞）。



河川橋梁の計画・設計

由利橋（由利タワー）

秋田県由利本荘市を流れる子吉川に架かる由利橋の架替え事業であり、鋼2径間連続斜張橋を計画・設計しました。



自然を守る橋梁の計画・設計

紀勢宮川橋

ダブルタワー形状の採用により、周囲の景観と調和のとれた機能美を有するトラス橋となりました（平成17年度土木学会田中賞受賞）。



自然を守る橋梁の計画・設計

復興を支える橋の計画・設計

陸前高田ベルトコンベア橋

『奇跡の一本松』（写真右手奥）とともに復興のシンボルとなったベルトコンベア橋『希望のかげ橋』を計画・設計しました。



自然を守る橋梁の計画・設計

七色高架橋

雄大な自然に恵まれた地区の橋梁を踏まえ、高強度材料の採用による地形改変を最小限化し、環境保全に配慮した橋梁設計をしました（平成17年度土木学会田中賞受賞、全日本建設技術協会全建賞受賞）。



復

普

復

置

コ

弱

機



河

片

耐

強

ど

た



地下構造 (トンネル・地下道・地下駐車場・地下空間・特殊構造・解析実験)

トンネルや地下構造物は、地上空間の環境保全や土地の有効活用に大きく貢献しています。当社は、トンネル本体・設備の計画から維持管理、補修・補強まで一貫した多くのトンネル技術 (山岳トンネル、開削トンネル、シールドトンネル、沈埋トンネルなど) を提供しています。



海底トンネル設計

海の森トンネル (沈埋トンネル・東京港臨港道路南北線事業)

海の森トンネル (東京港臨港道路南北線整備事業) は、有明10号地と中央防波堤外側地区を結ぶトンネルである。当社は海の森トンネルの海底部分となる沈埋トンネル約930mの設計を実施した。構造は制作期間が短い鋼殻内部にコンクリートを充填するフルサンドタッチ工法が採用され、筒の長さは国内最長となる134mとなる。フルサンドタッチ工法とは、筒体外面・内面のすべてを鋼殻で制作し、この部材間にコンクリートを打設して一体化する方法で、制作ツックで鋼殻を組み立て、海上に運搬し、コンクリート打設を行うことで、同時に後継箇の鋼殻の組立が可能となる。沈埋工法を採用した、(日建) 運 技術賞 を受賞。沈埋トンネルは、国内で90事例ほどあり、直近では約10年前の「那覇臨港道路 (沖縄県)」「新神戸道路 (北九州市)」「大阪夢咲トンネル (大阪市)」と異なるが、すべてにリエントラの設計技術が用いられている。

アセットマネジメント (保全・維持管理)

人口減少、財源不足、施設の老朽化等の環境変化やデジ
社会資本全体を包括的に維持・保全し、価値を高めるため



山岳トンネル設計

栗子トンネル

福島・山形両県境に位置する延長約9kmの長大トンネルを設計しました。無料道路では日本最長、全道路トンネルでも東京湾アクアラインに次いで5番目に長いトンネルです。



避難施設計画・設計

横浜環状北線・北西線避難施設設計

閉鎖された空間であるトンネル内で火災が発生した場合に甚大な被害が生じる恐れがあるため、避難施設を設置します。当社は、避難施設を構成する避難扉、すべり台構造、階段構造等に ついて実証実験を含めた設計サービスを提供し、安全安心な地下空間の利用に貢献します。



CIMの活用 (山岳トンネル計画・施工支援)

名塩道路城山トンネル他詳細修正設計業務

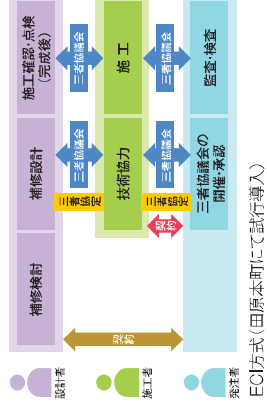
ICT (3次元測量、BIM/CIM) の高度利用により、ECI事業における関係者間の情報共有を迅速化し、技術提案・設計デザイン の精度向上、対外協議の円滑化をはかりました (令和元年度 i-Construction大賞 優秀賞受賞)。



インフラマネジメント (橋梁)

自治体向けECI事業

奈良県田原本町にて、全国初の自治体向けECI方式による橋りょう保全事業を試行しました。試行の結果、工期短縮・品質向上、発注者負担の軽減効果を確認できました。



ECI方式 (田原本町にて試行導入)

